

そよかせ

毎日新聞西部社会事業団だより

第113号 2022年6月

発行所 〒802-8651 北九州市小倉北区紺屋町13-1 (公財)毎日新聞西部社会事業団
 発行人 瀬尾 健悟
 電話 093-551-6675 ファクス 093-541-8009
 E-mail: s-maiswf@cotton.ocn.ne.jp
 郵便振替 01770-2-40213
 URL http://www.mainchiseibu-shakaijigyo.biz/

児童福祉事業3件

止まぬ児童虐待や養育放棄——子どもたちを取り巻く環境は相変わらず厳しい。社会のあすを担う大事な子どもたちを守り、はぐくむため、今期は3事業を助成・援助した。

「二円玉募金」による奨学金、無料学習塾事業を支援。「NPO法人和む」の吉本満廣・理事長が市民から広く浄財を集め、給付型奨学金支給するため、15年秋から始めた「二円玉募金」が、新しい給付型制度を導入したため対象者が1人となった。このため、経済的に困っている家庭の中学生を対象とした「無料の食事付学習塾」を新たにスタートさせた。19年度から関わってきた当事業団も助成した。

青少年の自立を支える福岡の会「自立援助ホム」年間運営費助成 児童養護施設退所後の15歳以下の青少年の自立を支援するNPO団体。2008年7月に「かんらん舎」をオープンし、15年度には2か所目の「結ホム」を開設、さらに19年度は3か所目の「リープ」の運営を開始した。福岡市からの補助金や会員の会費、寄付金で運営しているが、資金不足のため厳しい状態が続いており、今期も「母の日・父の日募金」を財源に助成。「かんらん舎」の共用部にあるエアコンの更新に充て

児童福祉施設への新入学・卒業記念祝い品プレゼント 恒例の本団主催事業。歳末助け合い募金「愛の義援金」を財源に、児童養護施設や障害児、肢体不自由児、盲ろう児などの児童福祉施設の小学校入学と中・高校卒業予定者にお祝いの記念品を贈っている。今年度も福岡・山口両県内の施設児童ら計66施設を対象に該当者の有無を調査した。

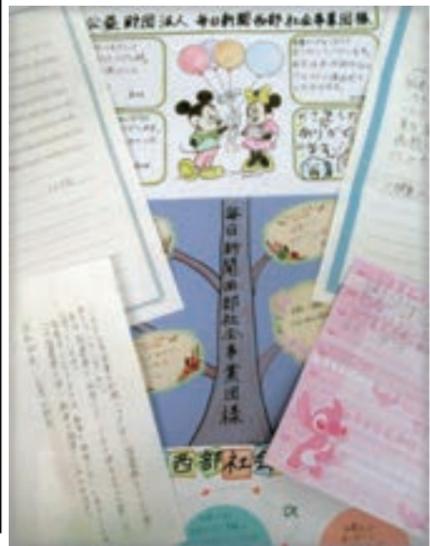
その結果、59施設に対象者415人がおり、新1年生にはランドセルがリュックサック、手提げ新入学、卒業の記念品プレゼントに対するお礼状

セット、雨具セット、図書カード(4千円分)のいずれか▽中・高校卒業予定者には目覚まし時計か図書カード(5千円分)を選んでもらい祝い品としてプレゼントした。

「高齢者福祉事業」 「市民後見センター」活動運営費助成

川兒童相談所管内児童福祉施設「フレ！愛！レクレーション」大会

以上のような各種事業を行うために、22年度もお力添えをよりしくお願いたします。



コロナで対策支援金

医療ボランティア「福岡ファミリーハウス」へ助成 同グループは福岡市内に3施設・4部屋を確保、九大病院や九州がんセンターなどに入院する患児や家族に1家族1泊1000円という安価で宿舎を提供し、喜ばれている。当年度も募金額は左右されない医療福祉

寄金から支出した。コロナの医療従事者に支援金 新型コロナウィルスの全国的な感染拡大で、医療崩壊を防ぐため、前期5月から募金を開始。当期も継続し、多くの募金が寄せられ、各自自治体の医療従事者支援窓口へ各40万円▽佐賀県、宮崎県へ各30万円▽福岡県、看護協会へ100万円

金も継続している。西部社会事業団は以下の自治体、団体に配分した。福岡県へ100万円▽山口県へ160万円▽山形県へ160万円▽山口県へ160万円▽山形県へ160万円▽山口県へ160万円▽山形県へ160万円

新理事長に山本氏

役員会 評議員3氏が交代

毎日新聞西部社会事業団は5月26日、北九州市小倉北区の毎日西部会館会議室で2022年度の定時評議員会を開き、21年度の事業報告案や決算案を承認、任期満了となった理事、監事を選任した。これを受け、第1回臨時理事会で、新理事長に毎日新聞西部本社代表の山本修司氏を選んだ。

定時評議員会は、新型コロナウイルス対策で書面審議が続き、会議形式での開催は3年ぶり。21年度の各種募金の状況や実施した助成・援助などを盛り込んだ事業報告案や決算案を審議、原案通り可決した。また、任期満了となった理事には、新たに山本氏と西部ガス執行役員・北九州地区総括の青木輝英氏が選任され、残る5人と監事はいづれも重任となった。

21年度の各事業の内容は以下の別項を参照。

この先立ち、5月9日の22年度第1回通常理事会で決算案などを了承。また、



◆小児がん征圧事業——38団体に◆

平成8(1996)年から展開している毎日新聞と毎日新聞社会事業団のキャンペーン「生きる——小児がんの子どもたちとともに」と連動した募金。当年度は、東京、大阪と合わせ全国で38団体に、1720万円を配分。第26次までの贈呈総額は3億9830万円となった。募金の配分団体は以下の通り。

がんの子どもを守る会(含むスマートムンストーン)▽難病のこども支援全国ネットワーク▽公益信託日本白血病研究基金▽ファミリーハウス▽スマイルオブキッズ▽メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン▽そらぶちキッズキャンプ▽小児脳腫瘍の会▽アジア・チャイルドケア・リーグ▽パンダハウスを育てる会▽ゴールドリボン・ネットワークあいち骨髄バンクを支援する会▽ぶくぶくばるーん▽京都大学医学部附属病院小児科ボランティアグループ「にこにこトマト」▽京都ファミリーハウス▽近畿小児血液・がん研究会▽しづたね▽守口ぶどうのいえ▽日本クリニックラウン協会▽こどものホスピスプロジェクト T SURUMI こどもホスピス▽Japan Hair Donation&Charity▽チャイルド・ケモ・ハウス▽名古屋小児がん基金▽三重大学病院小児科父母の会・ひだまり▽京都・がんと生殖医療ネットワーク

【西部管内】
 にこスマ九州▽九大病院小児医療センター親の会・すまいる▽産業医科大病院小児がん家族会・ひまわりキッズ▽宮崎ひまわりキャンプ▽九州がんセンター小児科親の会・大きな木▽久留米大病院小児科親の会・木曜会▽コメディカル・クラウン▽八幡病院小児科家族の会あおぞら会▽ペンギンの会▽宮崎ファミリーハウス▽たんぼぼハウス▽こども医療支援わらびの会▽レモネードスタンド in ふくおか実行委員会

38 団体 1720 万円

◆海外難民救援事業——20団体に◆

毎日新聞社会事業団が、毎日新聞紙面との連動で1979(昭和54)年から「飢餓・貧困・難民救済キャンペーン」として始めた海外難民救援事業は、2021年度で43年目を迎えた。例年、海外取材を基に紙面化しているが、今年度は新型コロナウイルスの影響で海外渡航が難しかったために断念、次年度に持ち越した。

一方、ロシア軍のウクライナ侵攻で、多くの人たちが着の身着のまま国境を越えて逃れる事態となった。不安の中、祖国に残された家族を思い、不自由な暮らしを続ける難民の姿を、外信部や東京写真部の記者が取材、「難民キャンペーン」として現地や隣国から報告した。新聞紙面で難民の様子を知った多くの読者から浄財が寄せられた。西部社会事業団は東京、大阪両事業団とともに、国際機関の日本ユニセフ協会や国連UNHCR協会、「ペシャワール会」「ロシナンテス」をはじめとするNGOなど20団体に総額1260万円を届けた。キャンペーン当初からの救援金の総額は16億6488万8344円になった。海外救援金の配分先と配分額は以下の通り。

国連UNHCR協会▽国連世界食糧計画WFP協会▽日本ユニセフ協会▽国境なき医師団日本▽日本国際ボランティアセンター(JVC)▽難民を助ける会(AAR Japan)▽シェア=国際保健協力市民の会▽AMDA▽シャンティ国際ボランティア会▽ワールド・ビジョン・ジャパン▽難民支援協会▽緑のサヘル▽バーナムサイジャパン▽アジア協会▽アジア友の会▽アクセス-共生社会をめざす地球市民の会▽ラリグラス▽ネパール震災ブリタム実行委員会▽シャプラーニール=市民による海外協力の会

【西部管内】
 ペシャワール会▽ロシナンテス▽難民を助ける会(AAR Japan)

20 団体 1260 万円

◆災害被災者救援事業◆

大雨による災害は各地で発生したが、広域にわたる大規模な被害がなかったため、募金の呼びかけはしなかった。しかし、一昨年の九州豪雨災害の救援金として、店頭で寄せられた浄財の寄託が4回あり、被害の大きかった人吉市へ届けた。

また、東日本大震災救援金と毎日希望奨学金にも多くの方々から善意が寄せられた。東日本大震災救援金は日本赤十字社の窓口が閉じたため、福島県に50万円▽希望奨学金は、事務を担当する大阪社会事業団へ400万円送金した。ともに残金は次年度へ繰り越した。

西部社会事業団への救援金・奨学金は以下の機関・団体に配分、贈呈した。
 【東日本大震災被災者救援金】福島県災害対策本部へ50万円【毎日希望奨学金】大阪社会事業団へ400万円【九州豪雨災害救援金】熊本県人吉市へ58万6820円

◆障害者福祉事業◆

助成・援助の事業件数としては最も多く、今期は、すべてが継続事業で計7件。うち名義後援のみは2件だった。

「声の点字毎日」発行▽第46回「わたぼうし音楽祭」▽第89回全国盲学校弁論大会▽日本ふうせんバレーボール協会運営費助成▽第41回「出発を励ます集い」
 ◇名義後援事業◇第58回点字毎日文化賞▽第46回全日本ろう社会人軟式野球大会
 <コロナの影響で中止になった事業>
 毎日サマースクール▽北九州精神障害者福祉会連合会バスハイク▽脳性マヒ児のための母親研修キャンプ▽北九州市障害者水泳大会▽ごろりんハウス交流キャンプ▽九州地区聾学校体育・文化連盟大会▽北九州市障害者ボウリング大会▽中間市手をつなぐ育成会年末もちつき大会▽北九州市障害者スポーツ大会▽肢体不自由児・者の美術展

◆福祉団体助成事業◆

今期は、前年度と同じ12団体に助成金を贈った。いずれも継続事業で、前年度並みの助成をした。

あしなが育英会へ助成▽福岡、北九州、佐賀、大分の「いのちの電話」へ助成金▽福岡盲ろう者友の会活動費助成▽ホームレス支援のNPO法人抱撲に助成金▽山口県共同募金会▽福岡交通遺児を支える会▽九州盲導犬協会▽北九州あゆみの会▽北九州市障害福祉ボランティア協会



編集後記 ◆当事業団の22年度定時評議員会を、3年ぶりに対面形式で開催しました。20~21年度は、新型コロナウイルス対策で書面審議でした。今や定番となったオンラインでの会議開催も悪くはありませんが、実際に集まり話し合う方が、より思いが伝わるように感じました◆社会生活も徐々に規制が緩和され、コロナ前に戻りつつあります。しかし、ウイルスが消滅したわけではありません。「マスク」「手洗い」「うがい」での予防・対策は、まだまだ必要なようです。